

平成 22 年度事業計画

昨今の社会経済状況は、平成 20 年の世界同時不況の影響から不透明感を増しており、横浜市においても景気後退に伴い大変厳しい財政運営を強いられています。

このような状況のなか、平成 22 年度は当協会の中期経営計画及び横浜市との特定協約の最終年度を迎えるとともに、新横浜公園（日産スタジアム）以外のスポーツセンター等の指定管理施設の指定替えの年となります。このため、現中期経営計画等の達成や次期指定管理者の獲得に向けた積極的な取組が求められるとともに、公益財団法人の認定や次期中期計画及び協約の策定といった、今後の当財団の運営を左右する極めて重要な年となります。

そこで、平成 22 年度の実業計画策定の基本方針を 公益性の明確化 財源確保の努力 公正・適正な事務執行の徹底 受益者負担の見直しと定め、各事業の実施にあたっては、事業の継続性や必要性を再検証し、これまで以上に市民目線に合わせた市民スポーツや競技スポーツの普及振興を図るとともに、環境に配慮した取組を積極的に推進し、新たな「生涯スポーツ社会」の実現に向けた事業を展開していきます。

第一は、競技スポーツの推進事業です。

競技スポーツの普及振興を図るため、加盟団体と協力し競技力の向上や競技人口の拡大を目指すため、市民の競技スポーツ活動の機会を提供します。

第二は、地域スポーツ推進事業の実施です。

誰もが身近な場所で気軽にスポーツに親しむことができる環境を整えることを目指し、地域活動の支援やスポーツイベントを開催します。また、地域において気軽に実践できる健康体操の普及啓発事業を展開します。

第三は、健康・体力づくり事業です。

学校等の身近な場所で子どもの体力向上を図る環境づくりや超高齢社会の中、スポーツ・運動を通して高齢者が健康で潤いのある生活が続けられる環境を整備します。

第四は、スポーツ人材の養成・育成・活用事業です。

地域や各種目のスポーツ指導者を養成するとともに、各個人の能力に応じた活動促進を図ります。また、スポーツ医学の知見を積極的に取り入れたジュニアスポーツ選手や指導者の育成を図ります。

第五は、スポーツ情報収集・提供/調査研究です。

市民のスポーツ・レクリエーションや健康づくりへの関心を高めるため、横浜市内のスポーツ情報を収集し、「ハマスポどっとコム」や「SPORTSよこはま」等の媒体を活用してスポーツの情報提供を行うほか、スポーツに関する市民意識調査を実施し、新たなスポーツ振興事業の展開に活用します。

第六は、スポーツ施設管理・運営事業です。

全施設において、市民ニーズに対応した柔軟かつきめ細かいサービスの提供を図り、安全・安心・快適な施設の管理・運営を行います。

以上の事業を実施するにあたっては、競技団体・区体育協会・地域スポーツ団体等と協働した取組を積極的に進めるとともに、引き続き自主・自立を目指した健全な財団運営に努めていきます。

1 競技スポーツの推進事業

競技スポーツの普及振興を図るため、横浜市民大会・横浜市民マスタース大会及び横浜マラソン大会等、各種大会の開催や支援、他団体主催の大会へ選手等を派遣します。

(1) 各種スポーツ競技大会の開催及び助成事業

市民に各種目の競技スポーツに親しんでいただき愛好者の増大を目指すため、加盟競技団体と共にスポーツ教室や横浜市民大会・横浜市民マスタース大会やビーチフェスティバル等各種大会を開催するとともに、加盟団体の事業が円滑に実施できるよう運営費・事業費を補助し、市民の競技スポーツ活動の機会を提供します。

また、ジュニア期の競技力向上を図るため、ジュニアスポーツ選手の養成及び効果的な指導内容の開発及び普及を図ります。

ア 都市間交流スポーツ大会（開催地：名古屋）

イ 市民体育大会・市民マスターススポーツ大会

ウ YOKOHAMAビーチフェスタ 2010(8月)

ビーチバレー

ビーチサッカー

ビーチハンド

ビーチテニス



ビーチサッカー



ビーチハンド



ビーチバレー



ビーチテニス

年間事業スケジュール

平成 22 年 (2010 年)						
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
事業内容		フィットネスヨコハマ(5日) ワールドウォーク(5日)		都市間交流スポーツ大会	ビーチフェスタ	
	・市民大会、マスタース大会など各種大会 ・エンジョイスports事業の実施					

- エ 各区交流スポーツ大会
- オ エンジョイスポーツ事業(市民スポーツ教室の開催)
- カ 各加盟団体への事業費の助成
- キ 横浜市ジュニア競技力向上事業
 - 合同強化練習の推進
 - 医科学サポート
 - 医科学研修



ヨット教室

(2) 各種スポーツ競技大会の支援

市民が気軽に参加できるよう横浜マラソン大会や各種大会を開催し、大会運営の事務局を担うことにより、大会運営が円滑に進められるよう支援します。

横浜マラソン大会 等(12月)



第29回横浜マラソン大会

(3) 各種大会への選手派遣・参加

協会主催の大会以外にも、選手・団体を選考・派遣します。

ア 市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会(2月)

イ 全国健康福祉祭大会(ねんりんピック)参加選手選考



第64回市町村対抗
かながわ駅伝競走大会

(日付は予定)

			平成23年(2011年)		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
横浜元気! スポレクフェスティバル ねんりんピック参加選手選考会		横浜マラソン大会(5日)	新春スポーツ人の集い	神奈川駅伝競走大会	
・市民大会、マスタース大会など各種大会 ・エンジョイスポーツ事業の実施					

2 地域スポーツ推進事業

地域のスポーツ団体やボランティアと連携し、学校・公園等の地域の身近な施設でスポーツを体験できる機会を増やすことで、多くの市民が日常的にスポーツや健康づくりに取り組める環境づくりを進めます。

(1) 地域スポーツ支援事業の実施

ア 区体育協会等の地域団体との連携の強化

区体育協会をはじめとする地域のスポーツ関連団体との連携の強化や支援を実施し、地域でのスポーツ活動活性化を進めます。

イ 総合型地域スポーツクラブの支援

クラブの設立準備や設立初期の経費補助をはじめ、クラブが安定的に活動するための支援を行います。また、21年度に設立された「横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」と連携し、市域でのクラブ支援や啓発活動を展開することで、加盟クラブの事業活性化や総合型地域スポーツクラブの認知度向上を目指します。



総合型地域スポーツクラブ交流会

ウ さわやかスポーツの実施

子どもから高齢者まで、誰でも気軽に行えるさわやかスポーツ（インディアカ・グラウンドゴルフ等）の普及事業を全市的に展開し、市民のスポーツ実施率向上を目指すとともに、スポーツ実施にかかるノーマライゼーションを推進します。



グラウンドゴルフ

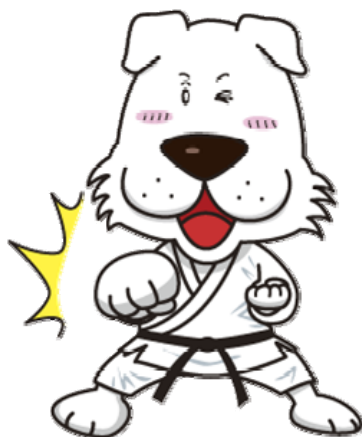
普及活動は、区を主体とした普及委員会活動とともに全市的な「さわやかスポーツフェスティバル」を開催し、活動の発展を図ります。

エ スポーツ少年団

市内のスポーツ少年団を対象に、研修・交流事業、顕彰事業、市民向け事業、日本及び県スポーツ少年団主催のスポーツ交流大会への派遣事業等を行います。



2009 ジュニアスポーツフェスティバル



オ 地元プロスポーツチームの支援（横浜熱闘倶楽部）

次代を担う青少年に夢や目標を与え、市民の連帯感の醸成と地域の活性化、市民が誇れるプロスポーツチームが育つ街を実現することを目的とした横浜熱闘倶楽部の事務局を担い、市民とともに、地元プロスポーツチーム（横浜ベイスターズ、横浜F・マリノス、横浜FC）の支援を行います。



少年サッカー教室

主な事業

- ・公式戦への市民招待・区民招待
- ・少年野球教室の開催
- ・少年サッカー教室の開催
- ・サッカーアカデミーの開催
- ・各種広報PR事業



少年野球教室

（２）スポーツイベントの実施

スポーツの普及振興のため、各種スポーツイベントを開催します。

ア 横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催(10月体育の日他)

各区スポーツセンター、市内の野外活動施設及び大規模施設等において、市民が気軽に各種スポーツに参加できる「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2010」を開催します。

また、併せて加盟団体及び日本トップリーグ連携機構の事業である「ボールゲームフェスタ」を拡大し開催します。



横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル

イ ヨコハマ・スポーツ・ワールド2010の開催(5月5日こどもの日)

- ・ファンケルフィットネスヨコハマ2010
- ・ヨコハマ・ワールド・ウォーク2010



ファンケルフィットネスヨコハマ



ヨコハマ・ワールド・ウォーク

3 健康・体力づくり事業

スポーツの普及・振興を図り、市民の豊かな生活を目指すため事業を実施します。

(1) 子どもの体力向上支援

地域スポーツ団体や地域のボランティア等と協力し、学校等の身近な場所で子どもの体力向上支援の事業を行います。

ア いきいきキッズモデル事業

平成 19 年度から子どもの体力向上のモデル事業として実施してきた同事業の成果を検証するとともに、引続き、地域で継続して取り組める体力向上プログラムを学校等の施設を活用し、保護者や地域団体と協力し実施します。



いきいきキッズモデル事業

イ ぜんそく児童の健康づくり事業

ぜんそくの児童を対象としたサマースクール事業を、医師会、小学校等の協力を得て実施し、児童の健康づくり、体力づくりを図ります。

(2) 高齢者の健康づくり支援

超高齢社会の中、元気な高齢者を増やし、高齢になっても生き生きとした生活を維持することができる環境を整え、スポーツ・運動を習慣化するために各種事業を実施します。

ア はまちゃん体操普及啓発事業

当協会が開発した「はまちゃん体操」を市内各所の介護予防事業等で活用していただけるよう、ビデオやDVD、CD・テキストの販売促進を進め、普及啓発に努めます。

イ 健康体力測定事業（新規事業）

各種測定器具一式を装備し、市内の市民利用施設やイベント等に積極的に向き、体力測定を行うことで、運動・スポーツのきっかけづくりを図ります。

ウ はつらつシニアプログラム事業の受託

健康福祉局の実施する特定高齢者対象の介護予防事業「はつらつシニアプログラム」の運動プログラム部門の受託を目指し、当協会の介護予防事業の取り組みを広めます。

エ 高齢者健康体力づくり事業

各区福祉保健センターや地域ケアプラザ、地域団体などからの依頼に応え、高齢者向け事業の指導を行い、高齢者の健康体力づくりを図ります。

オ 介護予防教室プラン事業（新規事業）

運動指導・栄養指導・口腔ケア・フットケアといった介護予防に重要な各事業をパッケージにした「介護予防プラン」を教室形式の事業として、各区福祉保健センターや地域団体等の高齢者対象の事業者にPRし、身近な場所で介護予防に取り組める環境をつくります。

4 スポーツ人材の養成・育成・活用事業

地域や各種目で活動できるスポーツ指導者を養成するとともに、指導者の活動促進を図ります。

(1) スポーツ指導者養成事業の実施

地域や各種目で活動できるスポーツ指導者を養成するとともに、指導者の活動促進を図ります。

ア 横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座の開催

スポーツリーダー講習会（日体協公認）

健康・体力づくりインストラクター養成講座

地域クラブアシスタントマネージャー養成講座

（日体協公認）

アウトドアリーダー（野外活動指導者）養成講座

地域スポーツ研修

イ 競技指導者養成事業（コーチングセミナー・技術向上補助事業）

ウ 指導者技術向上補助事業の実施

エ 地域指導者向けスキルアップ講習会



スポーツリーダー研修

(2) スポーツ指導者の活動促進

スポーツ指導者の指導スキルを向上させるための研修を開催するとともに、地域での活動の場を広げるため、地域ニーズに応じた指導者の調整を積極的に行います。

「横浜市スポーツ人材活用システム」の運用

地域における幅広いスポーツ活動や健康維持・増進のための活動などに活躍できる指導者を登録する「横浜市スポーツ人材活用システム」を引き続き運用します。

また、登録者のレベル向上のため、スキルアップ研修を定期的実施し、同システムの利活用に努めます。

(3) ジュニアスポーツの推進

ジュニアスポーツ選手の養成のための強化練習やスポーツ医科学に基づくプログラムを行います。また、競技指導者の能力向上を図るためジュニアスポーツ指導者の養成も行います。

ジュニア競技力向上事業の実施

合同強化練習の推進

ジュニア医科学マルチサポートの実施

医科学研修の開催



陸上トレーニング

(4) 高齢者向け運動指導者の養成

介護予防事業や高齢者の健康づくり事業など、高齢者向け事業の拡充が図られている中、介護予防の要素や高齢者の特性を捉えた指導ができる高齢者向け指導者の育成を図ります。

5 スポーツの情報収集・提供/調査研究

横浜市スポーツ情報センターにて、市民に役立つスポーツ情報を収集し、スポーツ情報サイトやスポーツ情報誌などを通じて、市民へ積極的に情報提供していきます。

また、市民のスポーツに関する意識などを調査し、各種のスポーツ振興事業に役立てていきます。



情報サイトの新しいロゴとQRコード

(1) スポーツ情報の収集・提供

ア スポーツ情報サイトの運営・拡充

スポーツ情報サイト「ハマスポどっとコム」により、スポーツ情報を幅広く掲載・提供し、スポーツや健康づくりへの関心を高めます。

また、スポーツ施設やイベントなどの情報を提供するほか、画面上での閲覧者の運動記録やアドバイスなども可能とすることで、インターネットを使ったトータルのスポーツ活動と健康づくりのサポートを行います。

「読む」コンテンツ

スポーツ情報センターによる市内スポーツイベントなどの取材結果や市民からの投稿記事を写真や動画を使って発信するほか、著名人コラム、市体協イメージキャラクターによるスポーツ漫画、健康コラム、横浜スポーツ史などを掲載し、市民・閲覧者にスポーツの楽しさと健康維持の大切さを伝えます。

「健康づくり」コンテンツ

画面上でのトレーニングレッスンや閲覧者の運動記録管理、健康遊具設置公園の案内などをすることで、サイトを通じた閲覧者の健康づくり支援を強化します。

特に、市民スポーツ意識調査などで常に「やってみたいスポーツ」の上位にランクするウォーキングのニーズに対応するために、市内のウォーキングコース情報を集約し、地図で一括案内できるようにするほか、ウォーキング記録をサイト内で管理できるようにします。

「探す」コンテンツ

市内のスポーツ施設、サークル、教室・大会等の案内や結果、指導者紹介などの情報を、地図やカレンダーなどを使って検索できるようにします。

「仲間づくり」コンテンツ

対戦チームを探すことができるハマスポマッチメイクや、読者間でのコミュニティづくりを促進するSNS（ソーシャルネットワークサービス）など、インターネット上での閲覧者同士の交流の場を作ります。



役に立つ楽しいコンテンツを展開

イ スポーツ情報誌の発行

老若男女問わず易しく読めるスポーツ情報誌「SPORTSよこはま」を年6回（1号あたり16ページ、25,000部）発行し、市内各駅や公共施設等で無料配布します。

市民に役立つスポーツ情報や、季節に即した健康増進のためのテーマに基づいて、編集・発行します。

- 市体協加盟団体のイベント等の事業の紹介や報告
- 市体協関連イベントの紹介や報告
- 市内プロ3チームの選手や関連イベントの順次紹介
- 時節や流行に則した特集記事の掲載
- 読者参加型企画の連載
- スポーツ医科学センターによる健康関連情報の掲載
- その他市民にとって有意義なスポーツ関係情報の掲載



スポーツ情報誌

(2) スポーツに関する調査研究

市民スポーツ意識調査等のスポーツに関係した調査・研究を行い、新たなスポーツ振興のための事業企画等に活用します。



平成20年度
市民意識調査報告書



6 スポーツ施設管理・運営事業

横浜市の財産であるスポーツ施設において、市民の安全を第一に考えたうえで、快適なサービスの提供に努め、公の施設の管理者として適正な経費の執行に基づいた、効率的な施設運営を行います。特に、環境に配慮したまちづくりの推進を踏まえた運営を図ります。

(1) 横浜市各区スポーツセンター

横浜市各区スポーツセンター17館において、区民大会やスポーツ団体の大会として利用促進を図るとともに、個人のトレーニング等のスポーツ施設として区民が身近なところで気軽にスポーツを楽しみ、健康の保持増進に努めることのできるよう、スポーツ・レクリエーション活動の普及振興に寄与します。



親子体操教室

教室の特徴としては、文科系教室(定期教室・イベント)を全施設で開催します。

また、指定管理者として施設の立地環境・ニーズ等を踏まえた事業を展開し、コスト削減を図るとともに、サービスの向上や効率的な広報活動により市民のスポーツ実施率を向上させます。さらには地域のスポーツ関係団体や関係者との連携強化、安全安心な施設を維持するための設備点検強化を図ります。

(2) 横浜市平沼記念体育館

小規模の各種スポーツ大会の開催に適した施設として、積極的な情報提供による団体利用の促進を図るとともに、室内シューズやビブスなどのレンタル事業を充実させ利用しやすい施設を目指します。

(3) 横浜市少年自然の家

赤城林間学園(群馬県)及び南伊豆臨海学園(静岡県)において、海や山などの恵まれた自然環境を生かした自然体験プログラムや集団宿泊体験の場を提供し、青少年の健全育成はもとより、幅広い市民層へ野外活動の普及振興を図ります。そのために、カッターやハイキングなどの野外活動、自然観察や創作活動等のプログラムを充実させるほか、春休みや夏休みのスポーツ合宿のPR、冬季の家族・グループへの開放などの利用促進を図ります。



赤城・川遊び

また、青少年キャンプやファミリーキャンプ、スポーツ合宿等の野外活動教室の開催をはじめ、地元食材を生かした特別料理の提供、シーカヤックや雪山歩き用のかんじきなどの用具レンタル等、自主事業を実施します。

(4) 横浜市青少年野外活動センター

市内の三ツ沢公園(神奈川区)、くろがね(青葉区)及びこども自然公園(旭区)の身近なセンターと、市外の道志村(山梨県)のセンターにおいて、自然環境を生かした自然体験プログラムや集団宿泊体験の場を提供し、青少年の健全育成はもとより、幅広い市民層へ野外活動の普及振興を図ります。そのために、テント生活やウォークラリーなどの野外活動、野外炊事や創作活動等のプログラム開発、指導を行うほか、育児サークルや地域グループ、家族などの日帰り利用に開放するなどの利用促進を図ります。

また、幼児から大人までの幅広い市民層に対応した体験キャンプやファミリーキャンプ、スポーツ、文化活動等の野外活動教室の開催、野外炊事用の食材販売、ダッジオープンなどの用具レンタル等、自主事業を実施します。



くろがね・テント体験



三ツ沢・野外炊事

(5) 横浜文化体育館

横浜市内唯一の中規模施設として、「国際ジュニア体操競技選手権大会」や「皇后杯全日本女子柔道選手権大会」などの国際クラスの大会を観戦し、感動を共有する大会から、市内屋内スポーツ大会(卓球、体操等)など市民レベルの参加型大会まで幅広いスポーツシーンを演出します。また、「国立ポリショイサーカス」や「大相撲横浜場所」、「ロボットコンテスト」等の文化的イベントも含め、スポーツ・文化各種イベントをバランス良く開催することにより、幅広く市民のニーズに応えます。

特に、平成22年秋には世界から注目のAPECが横浜で開催されます。地元横浜での開催成功に向け横浜市と連携を図り、会場提供などの協力をします。

また、自主事業として卓球や体操等のスポーツ教室に加え、絵画、書道、生花、英会話等のカルチャー教室等、アンチ・エイジング応援プログラムを実施し、幅広い市民ニーズに応えます。



ジュニア体操



APEC 横浜開催

(6) 新横浜公園/日産スタジアム等

平成 18 年度より、横浜市体育協会・横浜マリノス・管理 J V (ハリマビステム他 4 社共同企業体) の 3 者が共同事業体を構成し、日産スタジアムを含む新横浜公園の管理運営を行ってきましたが、改めて第 2 期指定管理者(平成 22~26 年度)として決定し、管理運営してまいります。



サッカー日本代表戦

2 期目も引き続き、「見るスポーツ」として市民に夢と感動を与えることができる国際大会を誘致するだけでなく、公園内の下記施設を活用し、地域スポーツの振興や市民の健康・体力増進に貢献するとともに、フリーマーケットでのカーボンオフセットの実施、スタジアム内でのリユースカップの使用推進や ISO 14001 の運用など、環境に配慮した「エコスタジアム」としての取組を推進していきます。

ア 日産スタジアム(第 1 種公認陸上競技場)

国内最大の 7 万 2 千人を収容できるスタジアムの特性を活かし、サッカー、陸上競技等の国際大会を積極的に誘致・開催します。また、大会以外にコンサートやイベント等を開催し、施設の有効活用を図ります。

イ 日産フィールド小机(第 3 種公認陸上競技場)

ウ 日産ウォーターパーク(温水利用型の健康増進施設)

エ 北側園地運動施設(野球場・運動広場 1~2・投てき練習場・テニスコート)

オ スケボー広場・インラインスケート広場 1~2・バスケットボール広場

(新横浜公園内無料施設)

カ しんよこフットボールパーク(JFA 公認人工芝コート)

キ 北側園地新規オープン施設

(6 月オープン予定: ニュースポーツエリア 3・第 3 レストハウス)

さらに、自主事業としてスタジアムを使用するイベントだけではなく、公園全体を使用するような大型イベント(サイクルパークフェスティバルやスタジアム駅伝大会)の開催、会員制陸上教室である「日産スタジアム アスレティクスアカデミー(NSAA)」や市民が気軽に参加できる各種スポーツ教室の開催を通じて、市民の健康づくりと競技レベルの向上を図ります。また、新横浜パフォーマンスなど地域との連携によるイベントやフリーマーケット、新横浜公園の自然を生かした市民提案型の環境イベント(さくら草自生地復活プロジェクト、鶴見川舟運文化体験学習会など)、歳時記イベント(こいのぼり、七夕、凧揚げなど)などの事業を実施することで、スポーツ以外での公園利用を促進します。



鶴見川舟運文化体験学習会



サイクルパークフェスティバル

(7) 横浜市スポーツ医科学センター

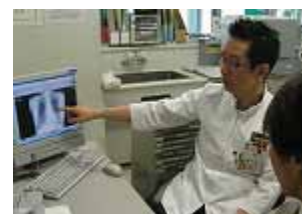
市民の健康づくりの推進・スポーツの振興・競技選手の競技力の向上を目的に、クリニック（内科・整形外科・リハビリテーション科）、大・小アリーナ（体育館）、25mプール、トレーニングルーム、研修室などを併設した施設の運営を行います。

ア スポーツプログラムサービス（SPS）

医学的検査・運動負荷試験・体力測定の実施結果により、生活・栄養・運動について、医師・管理栄養士・スポーツ科学員などの専門スタッフがアドバイスを行うスポーツ版人間ドックを実施します。

イ クリニック（内科・整形外科・リハビリテーション科）

一般的な内科・整形外科の診察からトップアスリートに対する診察まで、スポーツドクターなどの資格を持つ医師が診察を行います。また、内科・整形外科ともに疾病の予防・改善や症状の緩和・消失に運動療法を積極的に取り入れていきます。



スポーツクリニック

特定健康診査・特定保健指導については、医師・保健師・管理栄養士・指導員（健康運動指導士）などの専門スタッフによる組織的なサポート体制の下で、横浜市国民健康保険加入者の受託機関として受入れを行っていきます。

ウ メディカルエクササイズコース（MEC）

内科的・整形外科的疾患を抱え、積極的に運動することで改善が望める方を対象にした医学的運動療法教室です。アリーナ・プールの2コースがあり、医師の運動処方に基づいて、専門の資格を持つ指導員が運動指導を行います。

エ 教室事業

1年間を通じて体操・水泳・トレーニングのスポーツ教室を開催します。また、1年を4期に分けて太極拳・フラダンス・社交ダンス・ヨガなどの健康教室、医師などの専門スタッフの下で安心・安全な減量を行う減量教室を行うとともに、ロコモティブシンドロームの予防（運動器機能の改善）トレーニングとして、三次元解析装置を用いた科学的な効果測定により、姿勢・歩き方を改善するバランス・歩行教室など、スポーツ医科学に関する最新のニーズを反映させた教室も開催します。

オ 競技力向上事業

競技選手の競技力向上をサポートするため、地元のプロや実業団のスポーツチームを中心として、メディカルチェックや各競技に則した専門的な体力測定、横浜市のジュニア競技者に対するジュニアスポーツクリニックや、各競技団体のジュニア選手を対象としたジュニアSPSなどを実施します。



専門的体力測定

カ その他

研修室・会議室、大・小アリーナの貸出

トレーニングルーム、25mプールの個人利用

広報誌やホームページを通してスポーツ医科学情報を提供

スポーツ医科学に関する研究及び研究成果の学会等での発表

スポーツセンター等でのスポーツ医科学に関する市民向け講演

市体協職員に対するスポーツ医科学研修、運動療法の実践指導

(8) 屋外・屋内プール

屋内プール6施設(旭、港南、栄、保土ヶ谷、都筑、金沢プール)及び屋外プール2施設(横浜プールセンター、本牧市民プール)の運営を行い、市民のスポーツ・レクリエーションの普及・振興、健康増進に寄与します。

幅広い市民層に安全・安心・快適にご利用いただくため、日々の安全管理の徹底に努めるとともに、気軽に参加できる教室やイベントの開催等により利用促進を図ります。

屋内プールでは、水泳教室の充実や健康器具の設置を図るとともに、空き室を利用したのヨガ等の教室、高齢者を対象とした健康講座等を開催します。

屋外プールでは、プールの安全講習会や親子で参加するイベントを開催するほか、子ども達とのプールサイド緑化などにより施設の魅力アップを図ります。



栄プール

(9) 鶴見川漕艇場

鶴見川漕艇場において、ボート・カヌーの利用、貸出し等の管理運営を行い、水上スポーツ・レクリエーションの普及・振興に寄与します。また、より多くの市民が気軽に参加できるボート等の教室を定期的で開催し、利用促進を図ります。



カヌー教室

(10) テニスガーデン

緑(10面)、根岸(9面)及び泉中央テニスガーデン(11面)において、テニススクールの開催や貸しコートの運営を行い、市民のスポーツの普及振興に努めます。また、ジュニア及び一般初級者から上級者など利用者のニーズに合わせたテニススクールを開催するほか、貸しコートの利用においても積極的なPRにより、利用促進を図ります。



緑テニスガーデン

(11) 横浜みなとみらいスポーツパークの運営

みなとみらい21地区において、サッカーを中心としたフィールド系スポーツ(サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール等)の拠点となる横浜みなとみらいスポーツパークの運営を行い、市民スポーツの振興を図ります。一般の利用とともに、関係団体との連携を深め、大会・イベントの誘致を図り、さらなる一層の利用促進に努めます。



サッカー利用時

7 スポーツ団体等育成事業・協会運営事業

市民のスポーツ活動の啓発を図るため、交流事業及び表彰事業を実施します。

また、市民スポーツの普及・振興の目的を達成するために様々な事業を実施します。

(1) スポーツ団体育成事業

ア 交流事業

横浜市のスポーツの分野で活躍・功労のあった方々及びスポーツ関係者との交流促進のため、「新春横浜スポーツ人の集い」を開催します。

イ スポーツ表彰事業

各種スポーツ大会において、顕著な成績をおさめた個人・団体やスポーツ振興に寄与した個人を表彰する横浜スポーツ表彰を実施します。また、教育委員会表彰等の各種表彰への推薦を行います。



第 44 回新春スポーツ人の集い

(2) 協会運営事業

ア 教育施設協力町村児童受入れ事業の実施

少年自然の家等が設置されている、昭和村(群馬県)、南伊豆町(静岡県)、道志村(山梨県)の各町村の児童を横浜に招待し、横浜スタジアムでの野球観戦、日産自動車工場や、はまぎんこども宇宙科学館などの施設見学、中華街での食事などを通じ、子どもたちに横浜への理解を深めてもらう事業を行います。



昭和村児童(野球選手交流)

イ スポーツ振興基金の運用

よこはまスポーツ振興基金の運用

かながわ・ゆめ国体横浜市実行委員会からの寄付金を基に設置した「よこはまスポーツ振興基金」を横浜市、学識経験者等で構成する運営委員会に諮り、各種スポーツ・レクリエーション団体事業に助成し、幅広い市民スポーツの振興を図ります。

ワールドカップ決勝戦開催記念基金の運用

横浜市からの補助金を基に、「2002 F I F Aワールドカップ」の決勝戦開催を記念した基金を、横浜市、(社)横浜サッカー協会等とともに構成する運営委員会により運用します。

ウ 駐車場の運営

横浜アリーナに近接する新横浜駐車場ほか、6箇所の駐車場の運営を行い、その収益をスポーツ施設の管理・運営に還元します。

エ 創立100周年記念事業の準備活動

平成41(2029)年の創立100周年に向け、記念式典・記念イベント及び表彰事業等の事業内容や取組について検討するとともに、実施に向け準備をスタートします。

オ 危機管理体制の取組

市民が安全・安心・快適に施設利用ができるよう、市民の身近なスポーツセンター等の施設利用に対する日常の危機管理体制を整えるとともに、日産スタジアムや横浜文化体育館等のイベント開催時の危機管理体制を強化します。

また、平成22年11月のアジア太平洋経済協力首脳会議(APEC)の開催に伴い、県及び市の要請による対策にも協力します。